

平成29年度第1回広島市都市デザインアドバイザー会議 会議要旨

1 開催日時 平成29年(2017年)5月12日(金)15時30分～16時35分

2 開催場所 広島市議会議事堂3階 第1委員会室

3 出席者

(1)出席委員(7名)

岡河 貢、伏見 清香、高田 由美、田中 貴宏、鰐澤 達夫、柏尾 浩一郎、
中城 秀典

(2)欠席委員

なし

4 議事

児童相談所及びこども療育センター建替えについて(1回目会議)

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者 一般傍聴者 0名

傍聴者(マスコミ関係) 4社

7 会議資料

会議次第、委員名簿、広島市側出席者名簿、配席図

議事資料 児童相談所及びこども療育センター建替えについて

8 議事要旨

事業課より議事内容の説明を行い、それに対して各委員よりデザイン上の配慮事項に関する提案等を受けた。今後の検討事項はつぎのとおりである。

(1) 北側の歴史の散歩道について

① 石垣や駐輪場のデザインは歴史を感じさせるようなものとする。

② 敷地北側の歴史の散歩道沿いが若々しさと落ち着きのバランスがとれた都市空間へ発展するように、それをリードしていくようなデザインとする。

(2) 環境対策について

① エネルギーゼロとなるように検討を行う。

(3) 緑化について

① 屋上緑化については、維持管理を考慮して計画する。

- ② 二葉山とのつながりを考え、西側にも植栽を検討する。
- (4) 色彩等について
- ① 色彩だけではなく、素材感も重視して仕上げを検討する。
 - ② 宮島焼きや石垣は施設を利用する若年層にとっては地味であるため、検討を行う。
- (5) 全体の計画について
- ① 大規模な施設であるため、全体とディテールのバランスを考えデザインする。
 - ② 開放的で明るいファサードとなるよう検討する。
 - ③ クリエイティビティで子供たちが明るさを取り戻せるようなデザインを検討する。
 - ④ エキスパンションジョイントのデザインに注意する。

【会議概要】

○金澤都市デザイン担当課長

開会挨拶、出席者紹介、配布資料確認及び議事説明

○岡河座長

本日の議事について説明をお願いします。

○橋本営繕課課長補佐

議事「児童相談所及びこども療育センター建替えについて」1回目の説明

○岡河座長

ただいまの説明に対して、設計方針、デザイン上の配慮事項に関して、提案または質問、意見があるか。

○伏見委員

耐震であれば国からの補助が出ると思うが、この度はそういう連携はあるか。

○石井障害児支援担当課長

施設整備補助としては愛育園と一時保護所があるが、耐震の補助ではなく福祉施設に対する補助が国から出るように聞いている。愛育園と一時保護所以外については補助はない。

○伏見委員

地上6階建てということであるが、狭くなったことと老朽化したことが建替えの大きな目的だと思うが、現在の施設の大体何倍となるか。

○石井障害児支援担当課長

約1.9倍となる。

○伏見委員

近景のところで色彩イメージ、石垣イメージの事例を挙げているが、これはどの部分のイメージとして持っているのか。

○橋本営繕課課長補佐

樹木のイメージとしては、地上部に中木程度をイメージしている。色彩のイメージとしては、全体的に宮島焼の少し薄い茶色をイメージしている。

また、石垣のイメージというのは、周囲に囲いをするとき石垣とすること考えている。

○伏見委員

色彩イメージということは、宮島焼のイメージは色ということで、素材ではないという

ことか。

○橋本営繕課課長補佐

そうである。

○鰐澤委員

今日現場を視察して、壁の剥落などかなりひどい状態だと実感したが、やはり限界がきているとお考えか。

○久光営繕部長

この建物も出来上がってから35年以上ということで非常に老朽化が進んでいる。それに加えて、特に児童保護関係のニーズに対応するには非常に施設が狭隘化しているという認識が10年以上前からある中で、ようやく建替えという運びになった。

○石井障害児支援担当課長

補足すれば、耐震性能が旧基準のため、災害時の拠点施設にもなるよう建物を建て替えて、耐震性能を持ったものに変えていくという趣旨もある。

○柏尾委員

色彩のことももちろん重要になってくる。まず最初から詳しいところというよりも、大きなところから考えていくことが大事になってくると思う。全体構成の外観のコンセプトで、周辺景観との調和ということがメインで書かれているが、それ以外に外観上のアピールポイントはないのか。

○設計業務受託者

今回の建物は複雑な構成になっているため、それぞれの棟ごとにボリュームを設定するが、そのボリュームを無理に合わせるわけではなくて、コンセプトとしては一つの建物として街の中に馴染むように、庇や同じ色彩の壁、資料には特徴的な輪郭と書いているが、そういったもので全体をまとめていくという考えで設計している。

○柏尾委員

まず、色彩を考えていく場合には、大きな概念、それから中、小という順にやっていった方がよいので質問させてもらった。

○高田委員

先ほど話のあった特徴的な輪郭というのは、外壁の色を変えているところで特徴的な輪郭を出しているということか。

○設計業務受託者

そうである。

○高田委員

庇やルーバーがあるが、このルーバーは固定のもので、この配置には何か意味があるのか。

○設計業務受託者

具体的にはまだ設計段階の途中であるが、可動ではなく固定で考えており、窓がランダムに開いているので、その前に付くようなイメージでいる。

○高田委員

あと、階段状の屋上緑化はどのようなものか。芝生のような低いものか。

○設計業務受託者

現段階では低い地被植物で考えている。

○高田委員

立面図からは山と連続性があるようなものになると思ったが、低いものだと道路からは見えないということですね。

また、木材利用を考えているとあったが、それはインテリアの方でお考えか。

○設計業務受託者

主にインテリアで考えており、外部においても雨掛かりがない部分や、特に老朽化が進まないような場所では、できるだけ利用ができたらとは考えている。

○高田委員

石垣の話が先ほども出たが、北側の今の石垣を残すという説明が現場であったが、駐輪場以外のところを石垣で残すということでお考えか。

○設計業務受託者

基本的には北側の石垣を残すイメージであるが、これは工事に伴って一度撤去されるので、それを復旧させる場合に広島城に見られるような野面積みという、様々な石の大小が重なったようなもので復旧できればと考えている。

なお、現在駐輪場の計画としているが、開発許可の関係で石垣を残すことも協議しており、まだ調整中である。

○中城委員

設計コンセプトの五つのキーワードにある環境に配慮した施設づくりについて、出来上がったときの省エネ性能の目標はどれぐらいか。例えば、今使ってる施設の使用エネルギー

一の半分など、どの程度を目標にした省エネ性能や環境に配慮した施設をお考えか。

○営繕課 長谷川技師

今現在検討中ではあるが、今回の業務の検討項目としてニアリーZEB（ニアリー・ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）という言葉を入れており、それを目指して、どこまで近づけられるかということを検討中である。

○中城委員

では、パッシブソーラーのようなものを考えているということですね。

広島市の地球温暖化対策実行計画では、CO₂排出量の削減目標として2013年に比べて、2050年までに80%削減、2030年までに30%削減という記述がある。今言われたようなエネルギーゼロということは、2050年で80%削減という目標を達成できると思うので、広島市が率先して他の事業者のお手本になるような省エネ性の高い建物を目指して造ることは非常に良いことである。ぜひエネルギーゼロになるようなデザインを考えていただきたい。

○田中委員

階段状の屋上の緑化は良いと思った。先ほどの話だと草本植物ということだったが、そこで休んだりすることをイメージされているのか。

○営繕課 長谷川技師

一部分は出入りができるような形で考えている。

○田中委員

2段ぐらい階段状になっているところの一部分が出入りができるようなイメージか。北側が2段緑化になっていると思うが、それ以外のところは普通の屋根になっているということか。

○営繕課 長谷川技師

そうである。屋根については太陽光発電設備を設置する予定ではあるが、その他については2階に園庭を設けるところもある。

○田中委員

先ほどのニアリーゼロという意味からすると、今、太陽光と言われたが、そうした環境配慮技術を総動員するようなイメージでいるということか。

○営繕課 長谷川技師

そうである。屋上も限られており、そのすべてに太陽光発電設備を設置できないが、そ

の辺りは考慮しながら、できる限りの範囲でやっていきたい。

○田中委員

先ほど、西日の話があったが、エントランス側が西になると思うが西側の開口を減らすようなことを考えているということか。

○営繕課 長谷川技師

窓が開くようになる場所の内部は体育館などの施設が入ってくる場所なので、開口面積を少なくして西日を少し抑制できるような形で考えている。

○田中委員

メインエントランス側から見ると少し開口の少ないファサードになるということですね。

○岡河座長

田中先生も言われたが、北側の屋上緑化は大変良いと思うが、メンテナンスの面をどの程度考えているのか。植物の根は強く、長期間維持管理をする上で、防水その他かなり色々な手当てが要ると思うので、その点も踏まえて緑化のことを考えていただきたい。

それから、北側の歴史の散歩道に面したところに石垣が少し残っており、この道に沿って樹木と樹木の間には駐輪場とバイク置場ができるということだが、ここのデザインが非常に重要だと考えている。バイクや駐輪場のところに歴史を感じさせるような屋根を造る、形はそうする必要はないが、例えばグレーの瓦のような屋根の下に駐輪場を造り周りを石で囲うなど、そういうところのデザインの可能性でこの道の印象が相当違うのではないか。つまり人間目線、人間尺度のデザインで、少しここを検討するとかなりこの道が違ってくるのではないかという印象を受けた。これから引き続き検討していただきたい。

また、鉄筋コンクリート造の建物ということで、外壁の造り方は現状ではどのようなことをお考えか。タイルのようなものを張るということか、それとも塗装のようなものになるのか。

○営繕課 長谷川技師

まだ検討中ではあるが、一部分はタイルを張り、あとは吹付塗装仕上げを考えている。

○岡河座長

それと、先ほどのルーバーや、水が直接当たらずメンテナンスが難しくないようなところで木材を使用するなど、その辺りのバランスをしっかりと検討すると全体として非常に良い建物になると思う。私が現地へ行って非常にあの場所が良いと思ったのは、広島市内では珍しく落ち着いた場所だという気がしたからである。この建物のコンセプトに

も落ち着きということがあったと思うが、そういう落ち着いた建物があの場所には似合うのではないか。鰐澤先生はインテリアも建物もされているが、その「落ち着き」ということについて何か意見があるか。

○鰐澤委員

難しいですね。まず、大き過ぎてどう把握してよいかわからない。ただ、色々な理由の方がここを利用されるのだらうと思うが、どちらかと言うとネガティブなイメージが強いところなので、できるだけ落ち着きを持っていながら明るさ、それからやはりクリエイティビティという、何か子供たちや若い人たちが明るさを取り戻せるような落ち着いた場所をデザインする。ソフトとしては美術などを利用できるような、もう少し大きく言えば、将来そういうことに興味を持つ人たちが出てもいいような場所、そのような場所が落ち着きとか明るさを生んで未来につながっていけるのではないかと感じる。

○岡河座長

それプラス、大きな建物なので、例えば入り口の周りなどに少し力を入れてデザインするなど、しっかり造らなければいけないところを良いバランスの大きさにして、なおかつ、そこで何らかのデザイン上の工夫をするとよいのではないか。

昔の日本の伝統的な街というのは大体2階建てぐらいで、やはりそれぐらいの高さレベルというのが人間にとって大事な影響を与えてくるような気がするので、その辺りを上手にバランスをとって設計を進めていただきたい。子供たちがここで過ごした後の色々な可能性を、建物が開いてあげるということはものすごく大事なこともかもしれない。

○鰐澤委員

ディテールと全体だと思う。ディテールというのが岡河先生が言われた人間スケールで、そのバランスがとれてるという状態が、おそらく人間スケールの場所になるのではないか。

○岡河座長

北側の道は樹木と樹木の上に自転車とバイクがただ置いてあるだけではなくて、そのデザインに何かやり方があるかもしれないと思った。先ほど言ったディテールというか、普通ならあまりデザインしないところの可能性を追求、検討されてみたらどうか。

○鰐澤委員

石垣は結構デザイン上の鍵になりそうですね。

○岡河座長

石垣と木のバランスと、もう一つ何かうまくそこで使う。おそらく駐輪場もそれほど大

きいものではなく、ある程度の大きさを分散するようなことを今考えていると思うので、何かそこでやり方があるのではないかと思う。屋根の造り方などで少し違うかもしれない。アルミニウムのポールにポリカーボネートの屋根ということではなくて、予算の範囲内でどういうことをするかで北側が意外に物凄く良くなる可能性があると感じた。

○鰐澤委員

石垣を一回壊して再構築するときに、今、岡河先生が言われたみたいにバイク置場と駐輪場のところに、石垣をどのような形でディテールとして生かせるかという考え方をすべきである。

例えば、原広司氏の建てた大瀬中学校のように、PTAの方たちが瓦を小口で立てて中庭に埋めて使うことで、逆に人間味のような感じが出る。何かそのような考え方で石垣を使われたらよいと思った。

○岡河座長

例えば、駐輪場の床もそのように考えてみて、その上の囲いを考えることで、かなり北側は変わってくるのではないかと思う。

○石井障害児支援担当課長

参考までに申し上げたいのだが、今示したイメージ図では北側の駐輪場がかなり点在する形で構成されているが、利用者はどちらかというとは広島駅方面からアクセスする方が非常に多く、敷地の南西の角の方からのアクセスがほとんどを占める。

駐輪場を北側に配置すると、わざわざ北側まで回り込んで、さらにまた西側に戻って入り口に入っていくことになり、利用者の動線から見ると非常に使いづらい駐輪場になりそうだということで、駐輪場を点在して配置することは、現在見直しの方向で考えている。利用者のほとんどのメイン動線というのは南西方向であり、まだフィックスしたものではないが、駐輪場はできれば南西の方向とか利用者の動線上に位置するような形で検討を進めたいと考えている。

○岡河座長

それならば、なおさら北側は石垣が残るので、何か可能性はあるような感じがする。もしも道路境界から多少引いたような場所で、歩いてる途中で座ったりできるような場所があってもよいかもしれない。北側の道のあの感じというのは1つの大きなポイントになると思う。

○伏見委員

景観上もすごく良いと思う。

○岡河座長

この道はとても良い。住んでる人が割と落ち着いて住まわれてる感じもする。独立住宅とマンションがそれなりのバランスで、人が住んでる街という感じがする。南側と比べるとかなり潤いのある感じがして、これは広島街にとってはうまく育てれば相当良い場所になる。そのような場所にこの建物がうまく入っていけば、都市のデザインとしては相当良い方向性になるのではないかな。

○伏見委員

利用目的からいっても、先生方が言われたヒューマンスケールとか、すき間のデザインというのがこれからすごく重要になってくると思う。

色の情報が私たちにとっては大変重要になってくるが、この建物の目的からいうと、やはり触覚というか素材感というのも大変重要になってくると思う。宮島焼の色のイメージと、例えば素焼きの陶器のような素材感など、それから、建物の中の仕上げについて、木をどう使うかであるとか、硬いタイルのような素材ではなく、吸湿性のある温かみの感じる陶器を使うなど、その辺りのところも考慮をしてほしい。省エネという意味も含めて、見た目にも冷たさを和らげて、ここの中に入る方々が触れるインテリアとしても大変重要なのではないかなと思うので、色だけではなく素材ということも重視して考えていただけたらよいと思う。

○岡河座長

宮島焼の色はテクスチャーと一緒にあって出てくるものなので、その辺りのことをどうやってうまく建物に反映させるか。

○柏尾委員

この地域は、岡河先生が言われていたようにとても良い雰囲気がある。やはり後ろに立つ二葉山が大事で、そこを囲んで人々が住んでいる。今日感じたのは、そういう環境の中で、戸建てと大きな最近のマンションの落差が大きいということである。スタイルとしてはなかなか出来上がってないという感じがした。

今回のこの建物は規模も大きく、公立のものでもあるため、やはりこの地域のお手本となるような、そういう建物となっていけばよいと思う。視察しての第一印象は、街並みにうまく溶け込ませることができるという印象がした。

あと、同時に考えていかななくてはいけないのが、先ほどもあったが、ここを利用される

方が、そこから先の未来、明るい未来を感じられるような設計をすることである。おそらく建物の中については、利用者が利用しやすいような配慮をいろいろされると思う。その外側のファサードについては、利用者だけではなくて他の人たちも見ることになるため、この施設がもっと開放的で明るいイメージになるファサードであるとよいと思う。どうしても西日側なので開口が難しいという点については、色彩、素材、形でそういった雰囲気を作っていく必要があるのではないかと思った。

そうした表現方法として、このランダム感のあるルーバーなどはおもしろいアイデアだと思う。それから外壁のシンボリックな部分は色彩のやり方がとても大事になってくる。

素材感で示している広島城の石垣や宮島焼というのが、ここを利用する若年齢の人たちにとっては少し地味過ぎる素材であるような気がする。他の焼き物であってもよいかもしれないし、この点はこれから考えていくのに良い材料になるのではないかと思う。

○岡河座長

今日ここを歩いてみて、60年代から70年代少し後ぐらいの原宿の表参道に近い雰囲気があると感じた。当時は住宅とマンションが結構良いバランスで、石垣などを使ったブティックとかもあったりして、そういう未来像があり得るのではないかと思った。どちらかというと、北側にまだおしゃれな感じの場所がないので、それを作れる素地がある。70年代の表参道は今ほどファッションブルで、たくさん人が来るところではなかったのだが、それなりにすごく良い街だった。これから広島の中でそうした場所にすることを目標にして考えると、相当良い街になるかもしれないと思った。

それをこの建物がある程度リードするような形になれば、これから30年、40年経つと北側が相当変わってくると思う。ここに来るまでの土地は普通のビルやリーズナブルなホテルなどがある街の中で、ここは磨けば相当潤いのある良い都市空間を作ることができるかもしれないという感じがした。ぜひそのようなポジティブな未来をイメージして、この建物を設計していただければと思う。

○田中委員

先ほどの北側の話に関しては、駐輪場を見直すということで、こちら側は通りのために使うということによいと思った。

あともう一つは、先ほど南西からのアクセスが多く、ほとんどそうなるだろうということだったかと思うが、そうだとすると、全体構成というところにも二葉山からの自然のつながりの話があったと思うので、西側から見たときも少し緑が感じられるようなものがあ

るとよいと思う。構成イメージの立面にあるような感じになるとよいと思った。

○岡河座長

緑が少しでもあれば大分違うのではないか。

○田中委員

視覚的にあるとつながりが感じられると思った。

○岡河座長

次から次へ増築されるが、ジョイント部分はエキスパンションジョイントになるのか。

○久光営繕部長

エキスパンションで繋ぐのは1カ所である。

○岡河座長

難しいと思うが、ジョイント部分のデザインに少し気をつけてされるとよい。ジョイント部分がきれいにできている建物は、そこで苦勞してる良さが出ると思うので、ぜひエキスパンションのジョイント部分のデザインに気をつけるとよいと思う。

○中城委員

順番に建てていくので施工上難しいのかもしれないが、南棟の愛育園が敷地の南側に寄っているが、住居部分はみな北側居室になっているのか。せっかく南に向いてるのに部屋が北側なのだが、それは制約上難しいのか。もう1スパンぐらい北に動かすというのは難しいのか。

○設計業務受託者

建物の配置に関しては、既存の建物に干渉しない範囲で最大の建物のボリュームにしており、大きさを変えることはなかなか難しいが、南側はまだ調整中のため、できるだけ南側にも向けるように配慮して設計していきたい。

○岡河座長

他に意見はないか。

それでは、本日予定していた議事については以上である。議事進行を事務局に返す。